

(2) 系統別の解析評価結果

現況調査を踏まえ、4つの系統ごとに市の緑を解析・評価します。

① 環境保全系統

● 桑名市を代表する自然環境

【木曾三川をはじめとする水辺環境】

- ・ 桑名市を代表する自然環境としては木曾三川があげられます。これら木曾三川には様々な水生生物や野鳥等の動植物が生息し、良好な自然環境が形成されています。
- ・ 市域を流れる木曾三川を含む長島地域全域と多度山の一部、桑名地域の一部は、三重県立自然公園条例に基づく「水郷県立自然公園」に指定されており、これらの良好な自然環境の維持向上を図るため、より一層の保全が必要です。
- ・ その他の多度川、肱江川、嘉例川、員弁川なども、水生生物の生息の場など、貴重な自然として保全、維持管理が必要です。



木曾川と長島運動公園



員弁川

【多度山などの樹林地の緑】

- ・ 桑名市は丘陵地が市街地の周囲を取り囲み、山並みによるスカイラインの連続性が形成され、どこにいても緑を認識することが可能になっています。
- ・ 特に養老山系、多度山麓付近（多度大社の周辺樹林地）は良好な自然環境を有する樹林地であり、多様な生物が生息するとともに、地域のランドマークとなっており、保全・維持管理することが必要です。



多度山



長島地域の田園

● 田園地帯

- ・ 市域を流れる河川の両岸流域には良好な田園地帯が広がっています。そのほとんどが農業振興地域（農用地区域）に指定され、良好な田園風景が保全されており、これらを今後とも保全・管理していくことが必要です。

● 身近な自然（緑）

- ・ 小山地区の宅地開発地の西部にはまとまった樹林地がありますが、宅地開発や土砂採取等により生物の生息場所の減少が危惧され保全することが必要です。
- ・ 大山田地区北西部や播磨地区北東部の丘陵地等の樹林地は、市街地の自然（緑）として保全する必要があります。なかでも高塚山古墳のある丘陵地は、歴史上重要な地区であり、適正な維持管理を行いながら保全する必要があります。
- ・ 市域南部の樹林地はまとまった緑であり、市街地を縁取る自然（緑）として保全する必要があります。
- ・ かつて竹の子の生産がされていた竹林等の里山は後継者不足や生活様式の変化等に伴い放置され、竹やぶ化しているものが増えてきています。これらの里山は身近な緑として利活用を図りながら保全を図っていく必要があります。
- ・ 市では生産緑地地区が34.5ha（235地区）指定され、農林漁業と調和した良好な市街地環境の形成に寄与しています。

● 自然環境への負荷を軽減できる緑

- ・ 緑には、二酸化炭素の吸収や大気の浄化、気温の調整、騒音、振動の緩和などの都市環境の負荷を軽減する機能があるといわれています。そのため騒音や大気汚染等が懸念される幹線道路や市街地などには、緑の特性を考慮し、公園や街路樹の適正な配置や屋上緑化等を行い、負荷の軽減等を図る必要があります。
- ・ また、丘陵地や河川などの持つ環境、地形等を保全しながら風の道を確認するなど、自然と共生できる市街地環境を形成することも必要です。



星見ヶ丘の街路樹

● 生態系の保全に資する緑

- ・ 野鳥や昆虫などの様々な生き物の生息地としての緑は、適正な維持管理を行い、良好な自然環境として保全することが必要です。近年、市街化が進むなかで、その周辺部においては、生物の生息場所、移動や繁殖できる樹林地や農地、水辺等の緑が減少し、昔は普通に見られた生物が限られた場所でしか見られなくなっています。このような生物の生息の場となっている緑については積極的に保全していくことが必要です。
- ・ 「三重県レッドデータブック2005」による、絶滅の恐れのある動植物のなかで、北勢地域で確認されたものは多種ありますが、そのなかで「三重県指定希少野生動植物」に指定されているものは、マメナシ（イヌナシ）とオニバスです。マメナシ（イヌナシ）の群落は県内最大の群落となっています。オニバスは多度地域の水田をはじめ、桑名地域や長島地域でも確認されています。また、嘉例川上流部等においては、ヒメタイコウチやホトケドジョウなどの希少種も生息しており、地域での保全活動なども行われています。こうした希少な動植物を保全するためにも、様々な生き物の生息環境となる農地等をはじめ、生態系のネットワークを形成する河川や市街地の樹林地等は積極的に保全することが必要です。